

「アトピー手記」 加藤 丈 0歳

2014年11月11日

「ステロイドと息子のアトピー」

息子に生まれて初めてのステロイドを塗ったのは生後5ヵ月。当時予防接種の為に通っていた小児科でもらった「リンデロン」だった。その頃息子の耳の辺りが黄色ブドウ球菌で黄色くガビガビになっており、なにも知らなかった私は清潔にしないと丁寧には洗っていたがもちろん一向に良くはならず、これはもしかしたらアトピーなのかもしれない、という思いも次第に強まっていた頃だった。予防接種の時に「先生、これはアトピーなんですか」と聞いてみたら、「乳児湿疹なら今ぐらいにはもう治ってきていないといけない、これはもしかしたらアトピーかもね」と言われ、いとも簡単に「ステロイド塗ってください、出しますから。これぐらいの酷さになると、ステロイドじゃないと効かないからね」と。ステロイドという響きに怪訝そうな顔つきになる母親を嫌というほど見てきたのだろうか、どことなくだが、とまどう私を疎ましそうに、たたみかけるような早口だった。「ステロイドの本当の良さを知らないくせに、風評だけを鵜呑みにしたバカ母はもううんざりだ」とその目は言っていたと思う。ステロイドの怖さをなんとなく知っていた私は塗るのをためらって2日が過ぎた。でもその間にも息子の耳は悪化していく。どうしても我慢が出来ずに薄く塗った翌日、あの頑固なガビガビはまったく綺麗になくなっていった。なんてすごい薬なんだと思った。この時、この魔法のように治る薬をなぜ？と疑って、逆に怖くなるべきだったのに、何ヶ月ぶりかに息子の綺麗な皮膚を見た感動のほうが勝ってしまった。それからは、「いやこんなに塗るのは良くない。」「ああまた酷くなっている、少しだけ塗ろう。」を繰り返し、ついには毎日顔に塗るようになっていった。初めは耳のあたりだけだったのが、次の日にはおでこも酷くなり、その次の日には頬にも広がるようになっていった。それと同時に足、お腹、背中とついに全身にまだらな赤みが広がるようになってしまった。これじゃあ、全身ステロイド漬けじゃないか。いい加減怖くなり背中などの広範囲は本当に薄く、ごくわずかししか塗れなかった。そうすると塗ったってぜんぜん効かない。初めてステロイドを使用してから3週間が経っていた。もう、全部やめよう。意味がない。ちょうど4月の最後でステロイドをすべて捨てた。

ステロイドはやめたものの、このまま見過ごすこともできない。ネットになにか有用な情報はないかと調べていた時、ある方の手記に出会った。読み進めていくうちに、ある病院での治療の話であることがわかり、松本医院をめ初め知った。HPを読み、ああここしかない。と感じた。ゴールデンウィークが終わったらすぐにここに行こうと決めて、はじめて診察を受けたのが5月7日。普通なら診察室に入れば、これまでの経過と現状を聞いてもらいながら本人の体を診察してもらうのが一般的ではないかと思うが、ここはそうじゃなかった。副院長先生の「はい、じゃあお母さん。なぜこの当院を選んだのか、ここの治療をどのように理解されているかまずお聞かせください。」から始まった。びっくりして、言うには言うが声が小さい。隣で診察されている院長先生のパワフルな声にかき消されて私の声が届かない。可笑しかった。



ここでの治療は漢方風呂と漢方の塗り薬が基本となること、免疫寛容を起こすことが目的であることなど一通りの説明を受けて帰宅。その日から息子と私の漢方風呂生活が始まった。漢方風呂一袋を二日に分けてベビーバスで使用。息子はお風呂が好きなので比較のおとなしく入ってくれたが、やはり一時間は大変だった。私がイライラしては双方にとって良くないので、30分入ればよしとして、それ以上は入れそうだったらそのまま浸かるという意識で入れていたら毎日50分以上は浸かっていてくれたと思う。ただ、途中でぐずりだすことも多く、治療の途中からはお風呂場ではなく、すこし冷房で冷やした室内で入っていた。これなら室内で遊んでいるのと変わらず、息子も快適そうだった。息子の肌に変化が出始めたのは、治療開始から10日後ぐらいから。もちろんだが悪化した。かゆそうに夜中かきむしり、よく起きて泣いた。こうなることはわ

かっていたがどうしてもやることもできないのは辛かった。漢方風呂の濃い液を冷やしておいて布に浸し、夜中に泣いた時それを患部に当てながら少しでもかゆみが収まれば、と必死だった。朝起きるとおでこは血だらけ、剥がれ落ちる皮膚がベッドに散らばった。そのうち、傷だらけのおでこに加わって、全身に小さな赤い発疹が出来て、見た目も結構悲惨なことになった。丁度治療開始から15日目ぐらいだったと思う。この時期あたりが私的には一番きつかった。



治ると信じて、納得して始めた治療。それでも不安になるほどの息子の顔。かゆがって金切り声をだして掻く息子を見守るしかできない辛さ。これがいつまで続くのだろうと思ったが、そこから4、5日して発疹だけは引いてきた。相変わらずおでこ頭皮は傷だらけ、かゆそうにかきむしる日々が続く。その後は、すこし綺麗になったり、かきむしったり。一進一退を繰り返すような1ヶ月が過ぎた。ただ、久しぶりに息子を見た知人は、ものすごく良くなっていると驚いた。毎日見過ぎている親には一進一退に見えたが、実は少しずつ皮膚は良くなっていたのだ。治療開始から1ヶ月半ごろには、おでこや耳のあたりにかきむしった傷やかさぶたがあるものの、頬などはあかちゃんのすべすべもっちり肌になり、背中とお腹の8割は普通の皮膚に戻っていた。あれほど背中とお腹全体にまだらに広がったアトピーが気がつけば一部にだけ残すのみとなっていることに、この漢方風呂の凄さを感じた。



治療開始から丁度2ヵ月後の頃、息子の治療開始時を見ていた知り合いに会った。彼女は息子を見て本当に驚いていた。「ものすごく綺麗になっている。ぜんぜん違う。もうアトピーって言わないとわからないよ！」とても嬉しかった。

余談だが、この頃私の風邪が息子にうつって、息子は熱を出した。前述の小児科と松本医院、どちらにも電話をしてみた。小児科は受付の女性が「お薬を飲まないといけないので来院して下さい。」と言った。ここの先生はステロイド愛好家なので、解熱としてまたステロイドを出されるような嫌な予感がした。松本医院は院長先生が電話に出てくださり、「あんたの風邪がうつって、あんたはそれが治っているなら、抗体が母乳からも出ているわけだから、おっぱいをたくさん飲まして様子をみなさい。体重が著しく減ったり、ぐったりしていなかったら大丈夫。心配なら毎日電話しておいで。」と言われた。実際、翌日には熱も下がり、普段の元気な息子に戻っていた。この小児科の先生には、息子の治療中、またもや予防接種の時に、「おでこ結構ひどいねえ、ステロイド塗ってこれ？」と聞かれたので、「いえ、ステロイドはやめています」と答えると、「僕は塗ったほうが良いと思うよ」と言った。そのあと小さい声で何かしら説明のようなものをしていたが聞き取れなかった。松本院長先生から感じる自分の治療法への自信や信念、熱意みたいなものをまったくこの先生からは感じない。普段あまり気にしなかったが、松本医院長に出会って、こんなにも違うものなのかと驚くばかりだ。その後、順調に顔やお腹のアトピーはなくなり、息子を知っている人はすごく驚き、初めて会う人にはきれいな肌やねえと言われる。アトピーだったんです、という信じられないとみんな言う。ただ、おしりの上に二箇所ある、ちょうどオムツのゴムの部分にできているアトピーだけはまだ治らない。息子もかゆそうに掻くのでなんとかしてあげたいが、つ

かまり立ちをはじめた今はおとなしくお風呂に入ってくれず、それ以外は本当にきれいになったので少し楽観視してしまい二ヶ月ほど経った。この二ヶ月は漢方風呂もストップし、何の治療も行わなかった。そうすると肌寒くなってきた10月末頃から頬が少しざらっとする日が出てきた。酷くなることはなく、次の日にはマシになっていることが多い。すこし心配になったので松本先生に電話をしてみると「この子が初て出会う化学物質に反応しているんや。もう離乳食を食べているなら、お風呂じゃなくてお茶にすればいい。」と言われ、現在は漢方のお茶を飲ませている。頬は少しかさつく日もあれば綺麗な日もあり、アトピーが酷かった時期に比べれば本当にマシだし、何より私自身がまったく心配していない。もうすこしかかるかもしれないが必ず治ると確信している。

その電話の最後に手記の話しになり、松本先生から書いたものを送ってほしいといわれた。そして「手記には必ず、また少しアトピーが出てきたからお茶を飲んで、と書いてや。」と言われた。治療に自信と確信があるから言えるのだと思う。早くに松本医院を受診して本当によかった。あのままでは結局酷い見た目に耐え切れずステロイドを塗ったり塗らなかつたりを繰り返していたと思う。本当に感謝しています。ありがとうございました。あと少し、完治までよろしく願います。

